◎海外日本語教師教授法総合研修(秋期)

埼玉県さいたま市浦和区にある国際交流基金日本語国際センター様からお声がけいただき、10 年前の 2014 年より年に数回「津軽三味線デモンストレーション」として、日本の伝統芸能「三味線」の実演と解説をしております。

海外日本語教師の研修や日本語教材の制作、教授法の開発、普及事業など、世界中の日本語教師の育成を担っている当センターには、毎年たくさんの外国人が世界中から集まり、日本語の習得や日本文化の研修をされております。これまでに当センターではのべ13000人の日本語教師が研修を受講されたそうです。

今回の「令和6年度海外日本語教師教授法総合研修(秋期)」では、10月1日から11月14日までの6週間で、世界20か国・地域から34名の日本語教師が研修を受けられました。私はその期間の10月25日14時から約2時間にわたり「文化体験プログラム」として、「津軽三味線デモンストレーション」を担当しました。

なお、参加された日本語教師の出身国は、中国、モンゴル、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、インド、ネパール、バングラデシュ、オーストラリア、エルサルバドル、ニカラグア、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、ウクライナ、キルギス、エジプト、マダガスカルと世界各地から埼玉県に集まりました。名簿を見て驚いたのは、大変な有事の中にも関わらずウクライナからも参加される日本語教師がいた事です。思わず嬉しさが込み上げました。

今回は皮の材質が異なる太棹の津軽三味線を3丁(写真手前からカンガルー皮、犬皮、人工皮)、民謡三味線(中棹三味線)を1丁、撥はべっ甲撥3丁、プラスチック撥3丁、木撥1丁を持参しました。特に外国人への解説で難しいのは、伝統楽器に動物の材質が使われている事についての説明です。昔からの伝統ですので正直にお話ししております。

さて、デモンストレーションの内容としましては、津軽三味線の演奏、私自身がどのようにして津軽三味線を学んだか、楽器自体の解説、参加者が実際三味線を持って、日本の有名な歌曲「さくらさくら」の一節を弾いてもらう体験コーナーへと続きます。

最初は皆さん津軽三味線の音の大きさに驚かれます。マイクを通さなくてもとても大きい音が出る楽器の響きを直に感じていただきました。また、埼玉から遥か北にある津軽の風土について、雪が多い津軽地方で、津軽三味線はどのように受け継がれたかなどをお話ししました。やはり雪は赤道付近の国々の方には未知の物と捉えられていたように感じられました。

この企画で一番盛り上がるのは体験コーナーです。重量のある津軽三味線を手にすると皆さん驚かれます。この楽器の重みが皆さんの記憶に残ってもらえればといつも思っております。世界中で知られている「さくらさくら」のメロディーは、殆どの参加者が容易に演奏できるようになります。以前、体験コーナーで「宗教上、動物の材質が使われている楽器には触れられない」という参加者がいたので、それ以降、動物の材質が全く使われていない三味線でおこなうよう配慮しました。

この企画は私自身、「日本の伝統楽器三味線を世界中の方々に紹介する」という使命感を持って務めております。また私自身も三味線を通じて外国人とお知り合いになれるのは嬉しい事です。企画が終われば必ず何名かの方からフェイスブックの友達申請が来ます。今回参加された数名の方から各国のお土産も頂きました。

参加者が滞在中の生活を満喫できるよう、埼玉の魅力もご紹介させていただきました。自国へ帰国されても、日本の埼玉での体験をいつまでも忘れないでいただければと願っております。